

# KIIA 北名古屋市 国際交流協会会報

発行者 北名古屋市国際交流協会  
Kitanagoya City International Association (KIIA)  
〒481-8531 北名古屋市役所（西庁舎4階）  
TEL 0568-22-1111（内線）2400

vol.23

2015. 11.

北名古屋の国際交流・・・ばづくり、ひとづくり、ちいきづくり。

## 新たな交流を求めて

### ― 次の10年に向けて ―

市政10年の節目の年を迎える北名古屋市は、10万都市にふさわしい国際交流機能をさらに充実させていくことが課題になっております。

この10年を振り返り、次の10年に向けて「新たな交流」を考えます。

この10年の北名古屋の国際化は、愛知万博での一市町村一国フレンドシップ事業で北名古屋市（旧師勝町）が韓国のホスト自治体となったことから始まり、この博覧会の成果を「いかに地域に根づかせていくか」というものでした。

2006年 北名古屋市が誕生。

2007年 北名古屋市国際交流協会を設立。

2008年 韓国全羅南道務安郡と友好都市提携。

2009年 務安郡との中学生の相互受け入れ派遣の交流事業始まる。

2011年 務安郡との「食の文化交流」を契機に国際交流をツールとした地域づくり「北名古屋地域ブランドプロジェクト」始まる。

このようにこの10年の務安郡との友好提携交流は、北名古屋の国際力アップの大きな力となり、市民一人ひとりの国際感覚の醸成に大きく寄与してきたところです。

これらの実績と成果をもとに、次の10年という新しいステージに向けて、さらに多くの人と交流し、世界につながる夢と希望を広げるため、新たな交流を求めたいと考えております。

市民の皆様から多く声が事務局に寄せられています。

「新しい交流先として英語圏の自治体と交流してほしい」

「次代を担う子ども達に英語でのコミュニケーションができる機会を設けてほしい」

「未来志向で一過性ではなく継続的な交流をめざしてほしい」

「韓国務安郡との交流も発展させてほしい」

「近隣アジア太平洋諸国と交流がしたい」などです。

このような新たな交流を求める市民の皆様のニーズを取りまとめ、市長に提言し、市民が主役となる国際交流の実現をめざしたいと考えております。

## 市民の皆さん！

### ご意見をお寄せください。

#### 「新たな交流を求めて

#### ― 次の10年に向けて ―

□募集期間 平成27年12月31日

□型 式 自由

寄せられたご意見は協会に取りまとめ市長に提言させていただきます。

北名古屋市国際交流協会



## 交流会

国際結婚ファミリーと語ろう

「いっしょ、わるいっしょ」  
北名古屋のこと

多文化共生社会づくりにつなぐため、市内在住の国際結婚ファミリーと市民との交流会を、9月5日(土)、「陽だまりハウス」で開催しました。

お集まりいただいた皆さんのお相手の国籍は、ミャンマー、バングラディッシュ、アメリカ、インドと4か国。宗教は、仏教、モスリム、ヒンズー教、キリスト教と多様な異文化交流の会となりました。それぞれの家庭の身近なことから、いいこと、わるいこと、生活習慣や子育て、宗教など話題は尽きず盛り上がりました。

双子の女の子を持つ夫がアメリカ人の30代の夫婦は、カリフォルニアのサソリも徘徊するという砂漠の町から妻の実家のある北名古屋へ。「あぶない。あぶない」夫が初めて覚えた日本語だった。「実家の両親と同居している。北名古屋では



さくらんぼクラブに参加するなどで子育て支援が充実している。アメリカの生活に比べてストレスが低い。日本

語ができない夫も、安心安全な北名古屋での暮らしに満足しているようだ」

ドイツに単身赴任している夫がインド人の30代の女性は、西春駅近くに住む。「仕事の関係で、初めて、北名古屋に住むことになった。一年前引っ越してきて、窓から田んぼが見える環境に感動した。しかも、名古屋にも近く、気に入っている。夫は、デュッセルドルフに住み、別居生活になったのが残念。仕事も気に入っている暮らしやすいので別居生活が続きそうだ」

夫がバングラディッシュ人で3人の子供を持つ女性は、勤務先が北名古屋で岩倉に住む。「夫は、いま一時帰国中。バングラディッシュの実家は、最近やっと電気が使えるようになった。インフラが整ってなく日本と比べると驚くことばかりだった。でも、夫の国バングラディッシュは貧しいが、人も自然も暮らしも素敵な国だと思っている」

ミャンマー人と結婚した60代男性。「40年一緒に暮らしても理解できないことがまだある。同じ仏教徒であるが、妻には、今でも、ミャンマー人としての宗教観や世界観が根強くあり、日本人との違いを感じる」

「夫は、キリスト教徒だが、日曜日に教会もいかない。私に宗教を強要はしない」

「夫はヒンズー教徒であるが違和感はない。宗教には厳格な人ばかりではない。宗教には幅があるような気がする」

異文化間のコミュニケーションは、結婚という形でもなかなか難しい。国際結婚が上手くいく秘訣は、人さまざまであるが、寛容の精神かもしれない。国際結婚ファミリーとの交流は、私たちのなかにある外国人という心のバリアフリーを実現する確かな一歩となった。

## ふれあいフェスタ2015

平成27年11月23日(祝)、北名古屋市健康ドームで開催される「ふれあいフェスタ2015」に出展参加します。

## ◇アリナ「国際交流コーナー」

① 北名古屋国際交流協会の活動のあゆみを写真パネルで紹介します。  
② フェアトレード商品を販売します。アジア・アフリカの開発途上国の自立支援につながる活動です。

③ 「北名古屋特産! いちじく酵母入り のむ酢」、「北名古屋特産! いちじくジャム入り いっちゃんパン」など北名古屋地域ブランド商品を特別販売します。

## ◇屋外テント「フェアトレードカフェ」

フェアトレード運動を普及啓発するため、フェアトレード商品による一日カフェをオープンします。







平成27年9月26日(土)、27日(月)、愛・地球博記念公園(モリコロパーク)を会場に、「愛知万博10周年記念一市町村一國フレンドシップフェスタ(主催愛知県)」が県内18自治体の出展のもとに、開催されました。このフェスタは、愛知万博10周年を記念する、万博と一市町村一國フレンドシップ事業を振り返るメモリアルイベントであり、愛知万博の成果が地域のなかでどう根づいているか、

## 愛知万博10周年記念 一市町村一國 フレンドシップフェスタ ―博覧会の成果を北名古屋に どう根づかせたか―

を考えるとイベントとなりました。会場となった地球市民交流センターでは、愛知万博を映像で振り返るシンボル展示がありました。10年前の愛知万博が再現さ

れ、貴重な映像の数々に、あの国際色一色となって燃えた万博が会場いっぱいに溢れました。県内自治体から持ち寄られた一市町村一國フレンドシップ事業の交流での記念品展示コーナーでは、北名古屋市も、地域を上げて支援した韓国やタジキスタンの記念品を出品し、愛知万博メモリアルの一役を担いました。

大芝生広場では、特設ステージでカラーキック口勢揃いのダンス、愛知県の友好提携先である中国江蘇省演芸集団のパフォーマンスや民族衣装ファッションショーなどで盛り上がりました。フードコーナーでは、世界の料理や愛知メシも出店され大賑わいでした。

博覧会後の地域での交流の歩みを振り返る一市町村一國フレンドシップブースコーナーも盛り上がりました。北名古屋は、フレンドシップ事業から国際交流協会を立ち上げ、韓国全羅南道務安郡と友好都市提携し、中学生や市民などの人的交流を深め、国際交流をツールとした地域を元気にする北名古屋地域ブランドプロジェクトを推進しております。この10年間で愛知万博の成果がどう北名古屋に根づいてきたか、根づいているか、紹介することができました。



## 私たちの国際交流

### 国際結婚あれこれ

井上清久氏

今は世界のどこの国へも気軽にいくことができる時代となり、国際結婚される方も多くなったと思います。人口約8万人の北名古屋市での国際結婚されている方も相当数になると思われます。私は40年前にミャンマー(ビルマ)人と結婚しました。婚姻届けを役所に提出に行ったら町で初めてだと言われた記憶があります。結婚は両人の合意で成り立ちますが生活するのはいろいろな社会的な制約が加わります。

ミャンマーは仏教国であり、風習も良く似ておりやっていたりと簡単に思いましたが浅はかで、細かい点でいろいろ違っており、今に至ってもというか、なかなかその溝は埋まりません。例えば、お墓の話ですが、ミャンマー人にはお墓を造って弔うという習慣がありません。日本人の私は理解できないことです。もっとも、先祖からのお墓を守っていくことができなくなり、放置されていることが取りざたされているのが、日本の現状ですが……。40年たつても片方にとり生活(人生)の根幹であり、押し付けられれば押し付けるほど抵抗が増加してしまいます。まあ、そういういながらも続いているのは縁あつてのことだと思っています。

次に私の子ども(長男長女)はいわゆるハーフで日本とミャンマーの血が50%ですが、子どもはミャンマー人と結婚しましたので、孫たちは日本25%、ミャンマー75%になる勘定です。

次に、マレーシアなどにシルバーク移住される方が話題に上がりますが、私たちが70才過ぎたら女房の土地であるミャンマーに移り住もうかと考えることがあります。何故かという点と日本と比較すると冬寒くないし、自然災害も多くな、ビザとか、医療、住居の心配もなく物価も安いので、なまけものの私にとり、のんびり生活が送れます。

日本人は、とかくしがらみに縛られ親からの土地にしがみついて汲々と生活しておりますが、それがよいことか、わかりません。時代が移り変わるにつれ生活の価値も変化していきます。同様に結婚の価値も私たちの時代と今では随分と違うと思います。つまるところ二人が幸せと感じ取ればそれでよいのではないのでしょうか。





## 第4回 アジアフェスティバル



アジア近隣諸国との交流の場として、市民手づくりにより第4回アジアフェスティバルを開催します。食と文化の交流を通じて、近くて遠いアジアを深く理解する市民のアイデア溢れる国際交流イベントです。

□とき 平成28年2月13日(土)  
10時から15時30分

□ところ 北名古屋文化勤労会館

□プログラム

アジアフェスティバルは「市民参加」と「オープンな運営」を基本に進めております。協会ボランティアによる運営企画会議が、アイデア出しから、企画、運営、実施まで市民が主役で進めます。「アジアを観て、識り、食す」をテーマに具体的なプログラム作りを進めます。



## 北名古屋地域ブランドプロジェクト ワールド料理講習会

国際交流をツールとした北名古屋地域ブランド商品の開発と普及のための料理講習会です。「北名古屋特産! いちじく酵母」を世界の料理に活用していく取り組みです。

講師は、韓国ウエスティンホテルで腕を磨いた料理の達人が指導します。

□とき

① 11月26日(木) フレンチ料理

② 12月24日(木) 韓国料理

③ 1月28日(木) イタリア料理

時間はいずれも9時30分から13時30分

□ところ

北名古屋市健康ドーム

クッキングルーム

□定員 30名

定員になり次第締め切ります。

□受講料 6000円

(協会会員 5000円)

※3回とも時間場所、講師は同じです。



## 国際理解講座 大塚清一郎講演会 演題「外交とユーモア」

講師 大塚清一郎氏

元外交官(エジンバラ総領事・スウェーデン大使)



外交官生活41年を貫いたのは、「外交におけるユーモアの精神」だった。

吉田茂首相との出会いから、エジンバラ総領事、スウェーデン大使等を歴任し、世界を見て、日本を考えた。大塚大使が北名古屋市民へ贈る「とっておき」の話とパフォーマンスをご期待ください。

□とき 11月28日(土)  
13時30分から15時30分

□ところ 北名古屋文化勤労会館小ホール

□受講料 無料

この講演会は大和塾と共催で実施します。

各種申し込み、お問い合わせ等は、左記までお願いします。

〒481-8531 北名古屋西之保清水田15番地

北名古屋市役所西庁舎4階

北名古屋国際交流協会

電話 0568(22)1111 内線2400

ファックス 0568(25)1800

Eメール info@kitanagoya-kia.jp

ホームページ http://www.kitanagoya-kia.jp

フェイスブック https://www.facebook.com/kitanagoyakia